

重点・努力点	目標	具体的内容
①指導の充実	一人一人の生徒の実態や教育的ニーズを的確に把握し、系統的な教育活動を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の実態や障害特性から、的確な教育的ニーズを把握して、指導目標や支援の方法を設定する。 ○「理解できる方法」「要求等を表出できる方法」について、1人1人の生徒に応じた個別の支援方法を考案し、教育活動を行う。 ○中学部の全教育課程において、1人1人の実態に応じた学習の機会と、活動量を十分に保障して、教育活動を行う。 ○「小学部と中学部」「中学部と高等部」及び「中学部の各学年間」の系統性や段階性を考え、実態把握、目標設定、学習活動、評価等を行う。
②安全で安心して生活できる教育環境	生徒が、安全に安心して生き生きと生活できるよう、教育環境を整備する。	<ul style="list-style-type: none"> ○丁寧な言葉遣いで、生徒の気持ちに寄り添った指導をすることを基本とし、生徒が安心して生活できるようにする。 ○生徒の動きを想定しながら、日常的に安全の点検を行い、問題点は速やかに教員間で報告し合い、改善する。 ○生徒が怪我をしたときや具合の悪い時などは、担任・養護教諭・管理職（主事または副校長）の3名により、状況（怪我の程度・原因・場所・時間等）の的確な共通把握を行い、最も慎重な判断に従って対応する。
③実践的指導力の向上	個々の教員や学部としての、特別支援教育の専門性や指導力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ○「目指す生徒像」が達成できるように、指導計画の作成、指導目標の立案、支援の考案を行う。 ○「目指す生徒像」が達成できるように、「目指す生徒像の指導の重点事項」に沿った教育活動を行う。 ○研修成果を共有化できるよう、学部会等で報告する機会をもつ。
④保護者との連携	保護者との連携を深め、保護者との共通理解の基に教育活動を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の状態・成果・課題などの情報や、将来像などの考え方を保護者と共有し、目標を明確化・具体化して指導を行う。 ○積極的に関係を取り、生徒や保護者の今の状況を把握する。 ○教員間での連携を密に取り、共通理解の下、対応する。
⑤働きやすさと、教育的効果の適切なバランス	勤務時間、働きやすさ、教育の充実のバランスを意識した働き方に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ○「勤務時間」「働きやすさ」「教育の充実」のバランスを意識した働き方について、実際の勤務を通して、より良い方法を考え、働きやすい環境を実現していく。